

国立大学法人福岡教育大学 令和2年度完了報告書

1. 調査研究概要

本学附属小倉中学校では、学校教育目標「創造的実践人の育成」を目指し、校訓「創造実践」のもと、育成すべき資質・能力として「自ら創造的に学ぶ力」を設定した。それは、教科を超えた力としての総合的な資質・能力である。迫り来る難題に立ち向かうためには、学校教育における真正な文脈での学びの積み上げ、他者との協働的な問題解決、そして教科等の枠組みを超えた知の総合化による総体としての力が必要である。その育成のための教科等横断学習テーマ(学習内容)およびその学びのためのパフォーマンス課題設定の原理、方法を実証的に明らかにし、そのモデルを提案することを目標とした。今年度は、2年間の理論研究・実践研究の成果を、「カリキュラム・マネジメントの手引き」としてまとめ、令和3年2月22日の成果報告会(オンライン開催)にて、広く公表した。理論編、実践編、Q&A編からなる本手引きは、県内外の学校、先生方に向けて、ホームページからダウンロード可能であり、今後各学校でのカリキュラム編成に活用可能である。

2年間の調査研究では、特にカリキュラム・マネジメントの教科等横断的側面に照射し研究を進め、その手続きを具体的に示すことができた。コロナ禍に際しても、オンラインの学びを広い意味での「カリキュラム・マネジメント」と捉え、研究に位置づけることができたことは成果であった。今後は、カリキュラムの評価や改善の側面、学校内外の人材活用を全面に打ち出しながら、さらに研究を深化・発展させていく予定である。

(実践地域における年間実施スケジュール)

※新型コロナウイルス感染予防の観点から、CM検討委員の先生方を招いての会議は実施できなかった。本研究の進捗報告に対して、電話やメールでのアドバイスをいただいた。

月	取組内容
4月	臨時休業中のオンライン学習対応
5月	オンライン学習と対面授業とのハイブリッド学習による基底カリキュラムの見直し
6月	通常授業の開始による授業時数確保計画策定
7月	研究成果活用による職員研修協力(飯塚市公立中学校)
8月	全国学力学習状況調査生徒質問紙の項目による生徒実態調査の実施
9月	CM検討委員への電話・メールによる進捗報告と意見聴取
10月	関連学会・研究会等発表(日本教育方法学会、全国社会科教育学会)
11月	『カリキュラムマネジメントの手引き』掲載のための既実践の分析、整理
12月	調査研究にかかる文科省ヒアリング 関連学会・研究会等発表(教育目標・評価学会)、卒業生への追跡調査実施
1月	研究成果活用による職員研修協力(飯塚市公立中学校)
2月	本調査研究 オンライン成果報告会の開催(ライブ配信による授業公開、カリキュラム・マネジメントの手引きについては、ホームページからダウンロード可。)

	関連学会・研究会等発表(未来まちづくりフォーラム, 福岡社会科教育実践学会)
3月	関連学会・研究会等参加(教科教育学コンソーシアム設立会議シンポジウム)

2. 調査研究の内容

実践校【福岡教育大学附属小倉中学校】

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

学校研究主題：「自ら創造的に学ぶ力の育成-教科等横断的なカリキュラム・マネジメントによる真正な学びのデザイン-」

(2) 調査研究の内容

本校では、上記abc, 3つのテーマに関わって、研究主題「自ら創造的に学ぶ力の育成-教科等横断的なカリキュラム・マネジメントによる真正な学びのデザイン-」を設定し、研究に取り組んだ。

この調査研究では、今次改訂重要キーワードであるカリキュラム・マネジメントとして、子どもにとって真正な学びを提供するための教科等横断的な学習テーマ(学習内容)を設定する方法およびその事例を開発し、提案することを目指した。

本校の実践から帰納的に明らかにした理論、さらにその代表事例、そして、研修会等で寄せられた各校からの質問内容等について、『カリキュラム・マネジメントの手引き』に示した。とりわけ、本校が「教科等横断のための関連づけ類型」を具体的な事例と合わせて示せたことは、本研究の特徴的な成果である。

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 学校総体として、カリキュラム・マネジメントに取り組む上での、基礎的な理論、方法の共有、およびそれら明示することができた。
- 特に、カリキュラム・マネジメントをデザインする際の起点となり得る、「教科等横断のための関連づけ類型」を、具体的な実践事例とともに提示した。
- 多くの学校で活用して頂ける、手軽な「手引き」として、研究成果を公表した。
- 積極的な発信と協働により、新しい学びの在り方や学習観について、教師・生徒・保護者・社会(地域, 自治体, 企業等)で共有した。
- 多様な年齢層の教師の関わりは、OJTとして機能した。
- コロナ禍により、基底カリキュラムの大幅な変更を余儀なくされたため、開発した教科等横断的な学習単元との関連を十分に示すことができなかった。今後、令和3年4月から始まる新教育課程において、一般的な教育内容を横断的学習として工夫できる余地を探り、提案する。
- 教科等横断的な教育内容・方法については、研究を進めることができたが、カリキュラムの評価や改善、地域の資源や人材活用といった点への言及が不十分であった。2年間の研究により帰納的に構築した本校なりのカリキュラム・マネジメントの理論を、経営的側面から検証、改善するサイクルに着目し、研究を深化させる。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

※

月	取組内容
4月	臨時休業中のオンライン学習対応
5月	オンライン学習と対面授業とのハイブリッド学習による基底カリキュラムの見直し
6月	通常授業の開始による授業時数確保計画策定
7月	研究成果活用による職員研修協力(飯塚市公立中学校)
8月	全国学力学習状況調査生徒質問紙の項目による生徒実態調査の実施
9月	CM検討委員への電話・メールによる進捗報告と意見聴取
10月	関連学会・研究会等発表(日本教育方法学会, 全国社会科教育学会)
11月	『カリキュラムマネジメントの手引き』掲載のための既実践の分析, 整理
12月	調査研究にかかる文科省ヒアリング 関連学会・研究会等発表(教育目標・評価学会), 卒業生への追跡調査実施
1月	研究成果活用による職員研修協力(飯塚市公立中学校), 『カリキュラム・マネジメントの手引き』入稿
2月	本調査研究オンライン成果報告会の開催(ライブ配信による授業公開, カリキュラム・マネジメントの手引きについては, ホームページからダウンロード可。)本調査研究の成果と課題の析出, 関連学会・研究会等発表(未来まちづくりフォーラム, 福岡社会科教育実践学会)
3月	県・政令市教育委員会への聴き取り調査, 関連学会・研究会等参加(教科教育学コンソーシアム設立会議シンポジウム), 令和3年度に向けた研究内容およびスケジュールの検討

3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

(○: 成果, ●: 課題)

○学校総体として, カリキュラム・マネジメントに取り組む上での, 基礎的な理論, 方法の共有, およびそれら明示することができた。

○特に, カリキュラム・マネジメントをデザインする際の起点となり得る, 「教科等横断のための関連づけ類型」を, 具体的な実践事例とともに提示した。

○多くの学校で活用して頂ける, 手軽な「手引き」として, 研究成果を公表した。

○積極的な発信と協働により, 新しい学びの在り方や学習観について, 教師・生徒・保護者・社会(地域, 自治体, 企業等)で共有した。

○多様な年齢層の教師の関わりは, OJTとして機能した。

●コロナ禍により, 基底カリキュラムの大幅な変更を余儀なくされたため, 開発した教科等横断的な学習単元との関連を十分に示すことができなかつた。今後, 令和3年4月から始まる新教育課程において, 一般的な教育内容を横断的学習として工夫できる余地を探り, 提案する。

●教科等横断的な教育内容・方法については, 研究を進めることができたが, カリキュラムの評価や改善, 地域の資源や人材活用といった点への言及が不十分であった。2年

間の研究により帰納的に構築した本校なりのカリキュラム・マネジメントの理論を，経営的側面から検証，改善するサイクルに着目し，研究を深化させる。